

アーチル療育セミナー

# 療育センターにおける学校支援の実際について

よこはま港南地域療育センター  
ソーシャルワーカー 小平 修

# 学齡児を支援する社会資源

教育総合相談センター  
いじめや不登校の相談

特別支援学校  
通級指導教室

特別支援教育総合センター  
教育形態の判断、配慮の相談

学校カウンセラー  
問題の背景の見極め  
児童・保護者へのカウンセリング



小学校

放デイなどの事業者

相談支援事業所

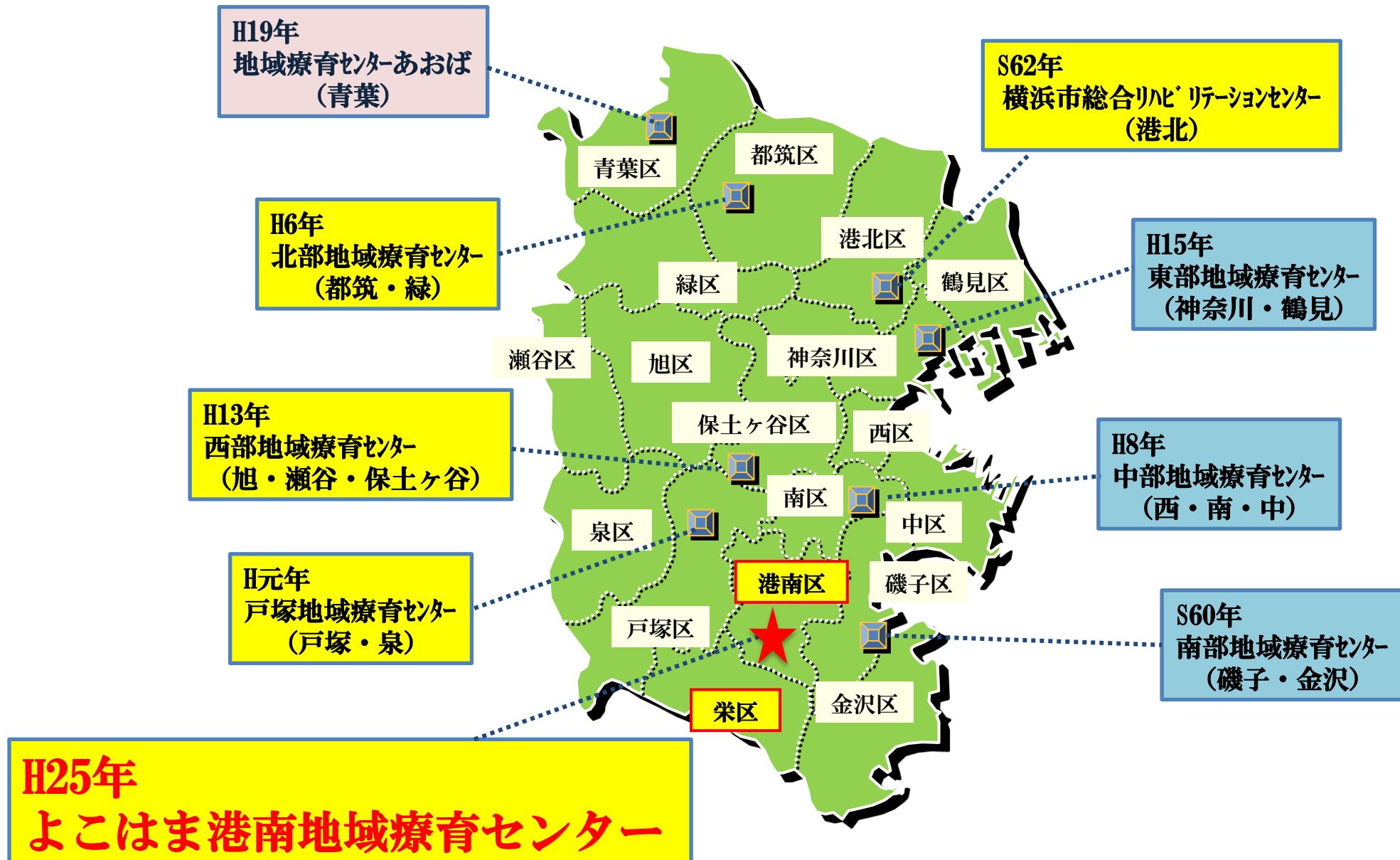
医療機関  
療育センター／民間のクリニック  
大学病院／こども医療センター  
医学的判断、特性への対応の相談

学校教育事務所

児童相談所

区福祉保健センター

# 横浜の療育センター



# よこはま港南地域療育センターの概要

- 設置・運営

社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団

- 設置施設

診療所

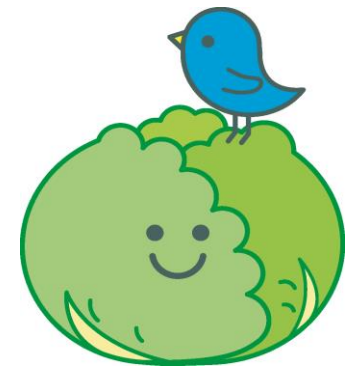
児童発達支援（知的障害児通園）

医療型児童発達支援（肢体不自由児通園）

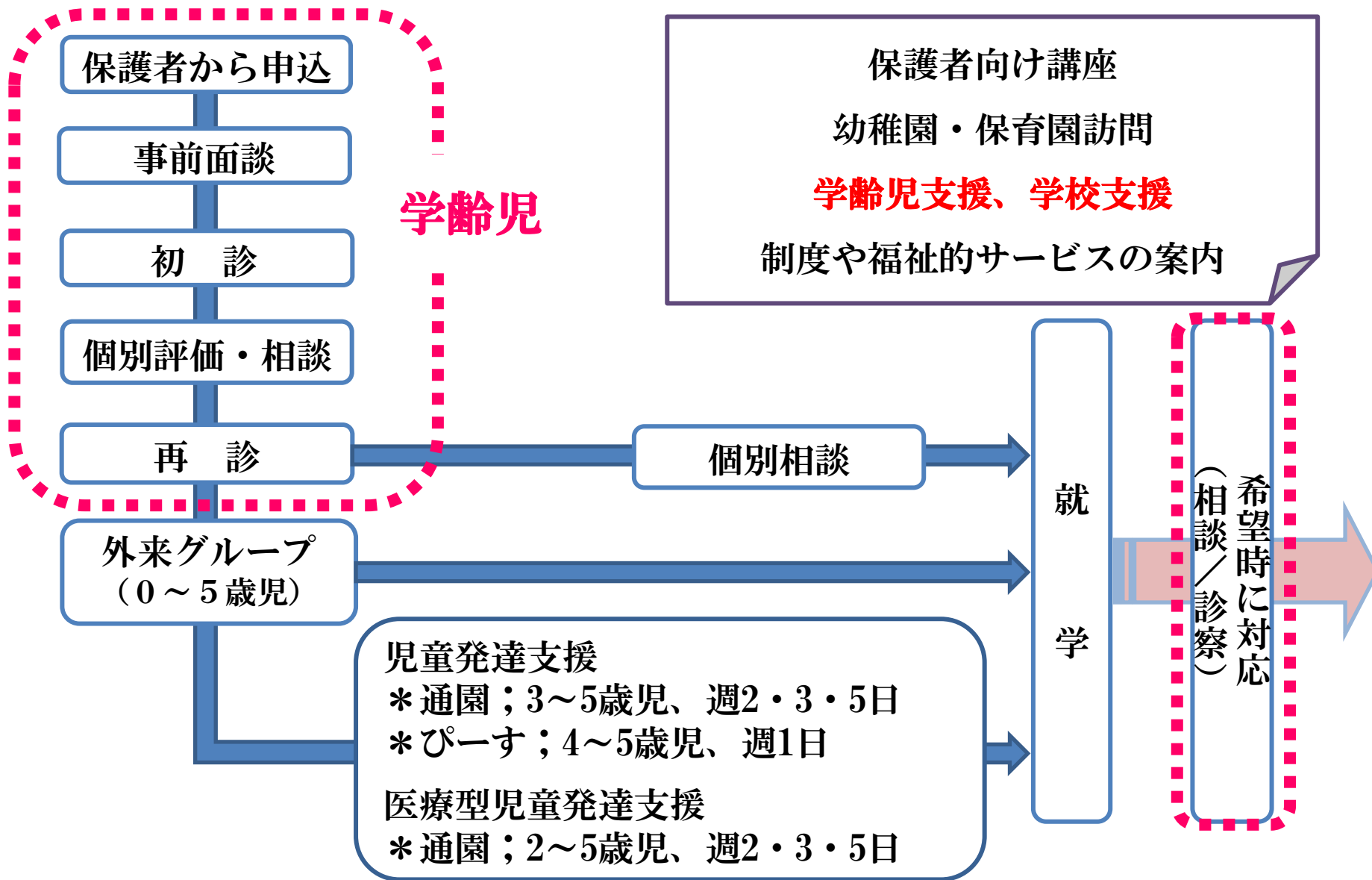
児童発達支援（ぴーす港南）

- 対象となる児童

港南区・栄区の0歳から小学校6年生



# 療育センター利用の流れ



# 学校支援事業実施の背景

# 特別支援教育を支援する

- 特別支援教育の始まり
- 特別な教育的ニーズを持つ児童への対応
- 「学校教育との新しいシステムの構築」の具現化

主に発達障害のある児童等への対応に関する支援を趣旨として、各地域療育センターに「学校支援スタッフ」を配置し、センターの有する経験と専門性をもとに、学校訪問による教職員へのコンサルテーションの実施など、各学校の状況に応じた技術支援を実施する。

(平成19年5月 こども青少年局障害児福祉保健課)

# 学校支援事業の概要

## 横浜市こども青少年局が平成19年度から事業化

- 対象：市内小学校の教職員  
(概ね療育センター担当エリアで分担)
- 人員：学校支援スタッフ1名 (各センター)  
(平成21年度から2名に増員)
- 内容：学校訪問によるコンサルテーション  
教職員への研修等
- 申込：各学校からの申し込みにもとづいて実施



# 学校支援事業の内容(学校向け説明文)

## 研修

- 担当スタッフが学校を訪問し、先生方を対象として、発達障害の支援に関する研修を行います。テーマは各学校の要望に応じて調整します。また、学校の企画した教職員向け研修とタイアップすることも可能です。

## コンサルテーション

- 各学級の様子を直接見学し、児童の捉え方、課題となる行動への対応法、コミュニケーションのとり方、教室の環境設定等について、担任の先生などに助言するとともに、種々の相談に応じます。

# 学校支援事業の実際

# 事前準備としてお願いしていること

## <打ち合わせ>

- ・ 教室後方から見た座席表の準備をお願いします。
- ・ 児童の様子や家庭状況など、参考になる情報を教えてください。

## <授業見学・行動観察>

- ・ スケジュールの調整をお願いします。
- ・ 日頃の様子がわかりやすい場面を見せてください。

## <ミーティング>

- ・ 学年単位で相談・共有させてください。
- ・ 専任や管理職の先生方の同席をお願いします。
- ・ 指導や引き継ぎ、次回コンサルの活用等のため記録を残してもらえると幸いです。



# コンサルテーションの一例

依頼の内、95%が通常級のコンサルテーション

10：30

15：00

16：45

|             |               |                  |                    |             |                               |
|-------------|---------------|------------------|--------------------|-------------|-------------------------------|
| 訪問<br>打ち合わせ | 3・4校時<br>授業見学 | 給食準備<br>など<br>見学 | スタッフ<br>昼食<br>情報交換 | 5校時<br>授業見学 | 授業終了後<br>ミーティング<br>学年ごと・クラスごと |
|-------------|---------------|------------------|--------------------|-------------|-------------------------------|

- 学校の状況・希望に合わせて調整
- 座席表をいただき、クラス内で授業を見学
- 児童の特性の確認
- 環境との関係の確認



# 学校からの主な相談内容

- 落ち着きがない 立ち歩く
- 感情コントロールが苦手 暴言/暴力
- 嘘をつく 謝らない トラブルが頻繁
- 指示が入らない マイペース
- 学力の遅れ 理解力が低い 幼い
- 保護者への伝え方

# 対応に困る子どもの様子は...

- 思ったことを即口にする→相手を傷つける
- 人の話を聞かない、自分の非を認めない
- 相手の嫌がることを言ったりやったりする
- 人間関係の距離がはかれない
- 文脈に関係なく発言する
- 給食や掃除などの当番活動をしていない
- 授業を聞いていない
- 失敗に弱い→苦手なことを回避する
- 整理整頓が苦手
- 嫌な記憶を忘れない
- 算数:計算は得意、文章題が苦手
- 理科:実験など勝手にするので友人と協力できない



**連携する中で見えてきたこと**

## 学校の実情・・・担当者が感じたこと

- 担任の先生は忙しい！
- 配慮の必要な児童は**6.5%以上**いる！
- 「障害」や「発達」と思いたくない！
- 「人権」が大切・・・暴力・暴言はNO！
- 「しゃべっている」＝「理解している」？
- 苦手⇒得意 弱い⇒強い 克服を重視する！
- **情報の共有が乏しい！**

## 児童理解の困難さ



# 担任の悩みどころは…

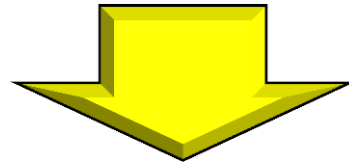
どう接していいか分からない

自分のやり方に自信が無い



**担任だけが背負い込まないように**

**課題や対応を共有しておく**



**結果を共有する**

# 連携の際の立ち位置について

# 専門家として担う学校支援事業

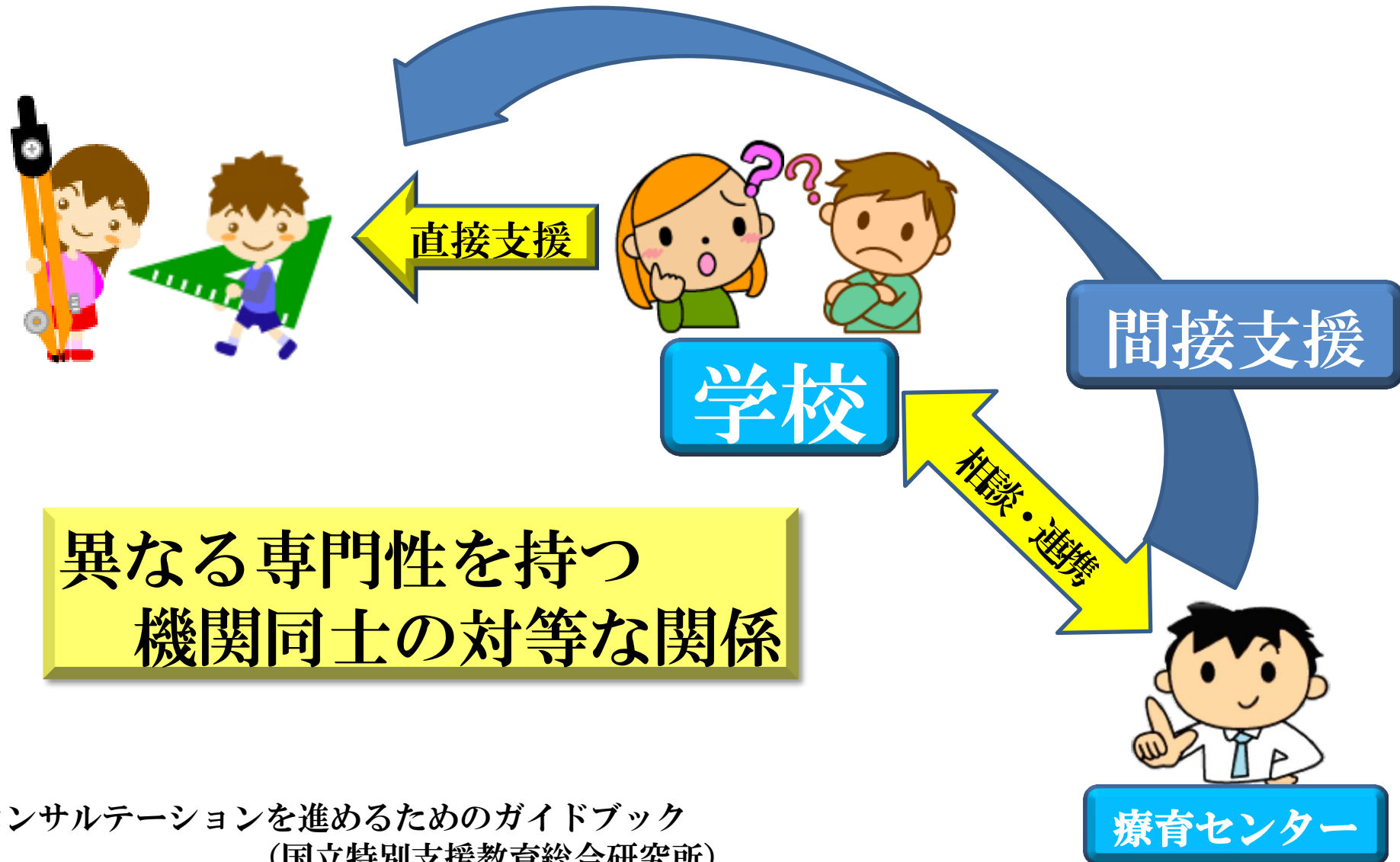
- 教職員への支援、学校への組織的支援を行う
- 発達障害に対する理解を促す
- 発達障害（疑い）児の適応を支援する

\* 上記の関わりによって、発達障害（疑い）児の二次障害や学校不適応を予防する。

発達障害の支援に関する助言

相談に乗る中で発達  
障害の理解を深める

# コンサルテーションと「立ち位置」



参考図書

学校コンサルテーションを進めるためのガイドブック  
(国立特別支援教育総合研究所)

# 可能性のひとつとしての 発達障害

# 叱られても困ること

## ・授業編

字が書けない、なぞり書きがズレる…形がとらえきれない  
作文が書けない、文がやたらと短い…思い浮かばない  
ノートがとれない…どこに書くのか分からない  
計算がやたら遅い、できない…数の塊が浮かばない  
課題の絵が描けない…情景を思い出せない  
やる気がない…興味関心のあることだけはする  
かっこよく座れない…頑張っているのにグダグダになる

わからなかったり、できなかったり、  
面白くなかったりしてないか？



# 手助けが必要なこと

- 生活編

昇降口にいけない…混雑が嫌い 誘惑に負ける

教室にいけない…校長室、保健室、技術員室が好き

朝の支度ができない…いろんなことが気になる

道具が揃わない…出さない 出せない 持っていない

提出物が出ない…忘れてしまう お便りが行方不明に

道具箱やロッカーが汚い…整理整頓ができない

不利な目立ち方をしていないか

# 刺激整理の視点は必ず伝える

## 集中できる環境づくり

### <教室>

- 黒板の左右、上下はすっきりしていますか？
- 教卓、事務机の上はきれいですか？
- ゴミは落ちていませんか？
- 壁の掲示物は後方にありますか？
- 席の配置は適切ですか？
- 板書はわかりやすいですか？

(字の大きさ、量、速さ...)

先生の良いところを見つけ  
困り感に寄り添う

# クラス全体を見るために

褒められることを奨励する雰囲気作り

\*「たいへんな子」のそばで我慢している子どもに気づく

\*叱ってばかりいると・・・担任の対応は子どものお手本

\*みんなが分かる学校生活の工夫



子どもを不安にさせない生活づくり

大切なのは先生のシナリオ

# 実行可能な対応の工夫を一緒に考える

問題をゼロにすることにこだわらない

\* 一度にすべてを解決しようと思わない

\* 課題と思うことに優先順位を付ける

\* 担任が対応することと学校組織が対応することを分ける



組織として問題を共有することの大切さ

コーディネーターの機能

# 個別対応が必要な場面を絞り込む

先生の指導上の目当ては適切か？

\* 集中できる時間は15分・・・3つの山を作ること

\* お手本になる子たちで囲む・・・真似っこでできること

\* 座席は担任が決める・・・我慢する子も気にかける

\* ことが起こる前に対応する・・・状況を予測する



不利な目立ちを減らすために  
失敗から学ぶより、正解を教える



## 支援を繋ぐことの大切さを伝える

困っている存在としての子ども

対応の足跡をしっかりと残す

先生が自然と出来ている対応も、あえて特別な対応として引き継ぐことが大切

# 学齡期の支援から見える 乳幼児期の支援で大切なこと



# 学校支援事業と学齢障害児支援事業

療育センター

学校支援事業  
研修・コンサルテーション

学齢障害児  
支援事業

入学時の  
引き継ぎ

全体への関与

相談・連携

個への関与

受診等

連携

# 入学時の引継ぎ

- 対象：療育センター利用児  
(入学前からセンターを利用していた児童)
- 目的：**児童の特性やこれまでの支援を引き継ぎ、学校生活をよりスムーズにスタートしてもらうため**
- 時期：入学前～1年生の春ころ
- 方法：来所していただいて口頭で
- 申込：学校から保護者へ了解を取っていただき、  
療育センターへ電話申込み

# 学齡障害児支援事業

- 対象：療育センター利用児
- 目的：医療・療育的な支援方法や配慮についての情報交換  
(入学後にセンターを利用した児童の引き継ぎを含む)
- 時期：随時受付・調整
- 方法：来所・訪問・電話
- 申込：学校から保護者へ了解を取っていただき、  
療育センターへ電話申込み

保護者の了解なく個人情報のはやりとりはできません

# 就学前の保護者支援で大切にしたい視点

相談はまず先生にする

苦手なこと、得意なことを伝える

伝えることを惜しまない

大勢の友達より一人の理解者をつくる

# 就学前の本人支援で大切にしたい視点

大人を上手に頼れるように

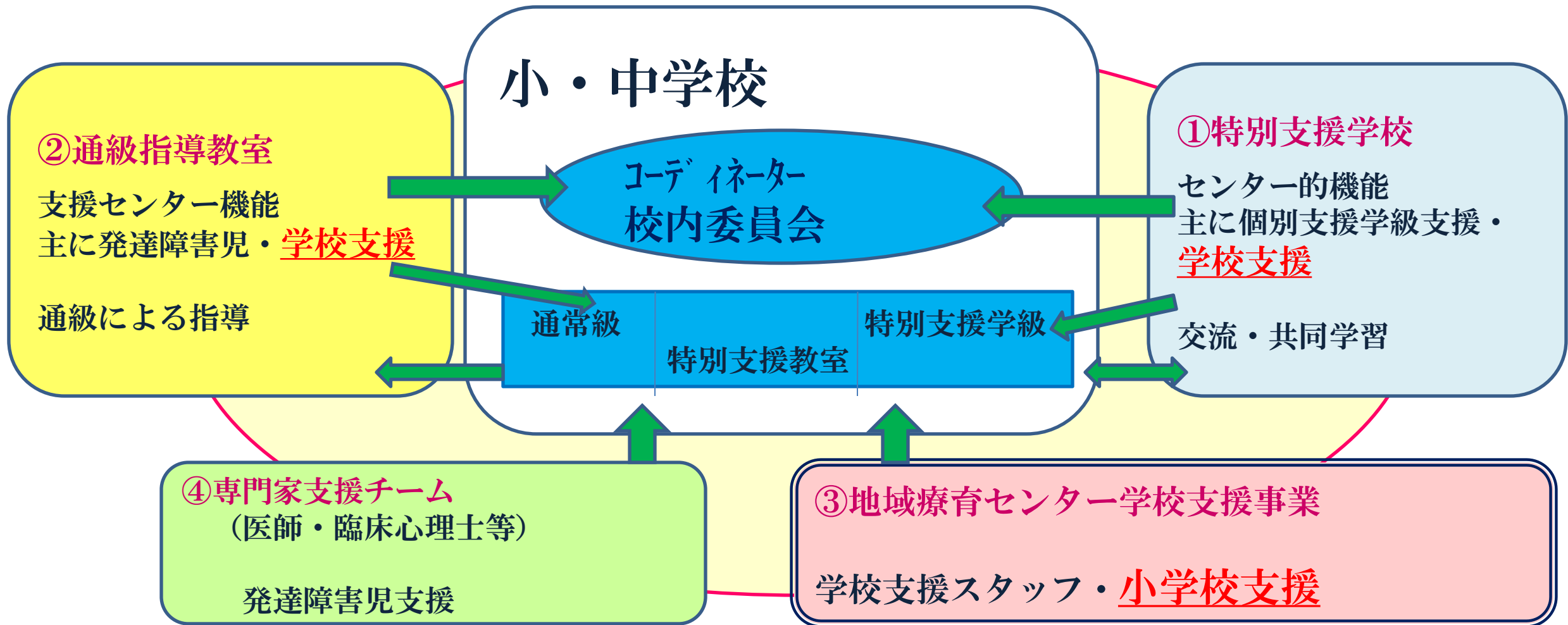
人から学ぶ経験を積む

一人で過ごせる余暇活動を見つける

「できた」で終われる経験を積む

# 12年間の取組みの成果と課題

# ネットワークの中の学校支援



児童支援・生徒指導専任教諭、児童指導担当教諭  
特別支援教育コーディネーター方面別合同協議会資料より抜粋 (H22.4)

# 12年間で変わってきたと思うこと…

校内支援体制の核になる教職員の誕生

予防的 計画的に支援を使う学校の出現

療育センターと教育との情報交換の機会が増加



# 12年間で明らかに変わったこと…

学校から紹介される学齢新患の増加

引継ぎを含め、協働する機会の増加

関係機関との顔の見える関係の構築

# 課題として…毎年確認が必要なこと

学校は異動があると引継がれない…期待してはだめ

## ■良い連携

キーパーソンがいる

機関同士の役割を理解し分担する

コミュニケーションをとりながらつながる

## ■悪い連携

キーパーソンがいない

**丸投げ**

相手をよく知らないまま…ズルズル

# 学校支援がもたらすメリット

その時の学校の状況を知ることができる

地域支援に取り組む上で、ツールとして  
とても価値がある事業

スタッフの技術向上にも役立つ

## 学校支援を続けるということは…

近くにいる大人に味方になってもらえるように、その大人を支えていくこと



学校と協働して、子どもたちの日々の成長や家族の生活を支えていくこと